

農大だより十六号

発行：平成26年
8月8日
栃木県農業大 学校
〒321-3233
宇都宮市上籠谷町
1145-1
TEL：028-667-0711

「時代の変革に対応する人材
の育成を目指して」

栃木県理事兼農業大 学校長
湯沢 修



この四月に校長として赴任しました湯沢です。職員と力を合わせ、引き続き本県の次代を担う優れた農業者の育成に尽力して参りますので、よろしくお願ひします。

今年度の入学式は、四月三日という新年度がスタートして間がない中での挙行となりました。当日は雨天の中、栃木県議会、後援会、同窓会を始め、多くのご来賓の皆様のご臨席をいただき、本科一年生六十六名の入学式が無事終えることができました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。また、研修科では、「とちぎ農業未来塾」に昨年度を上回る百十七名、「とちぎ農業ビジネススクール」に二十三名の受講生をお迎

えして今年度の研修がスタートしたところです。

今年度も早四ヶ月が過ぎ、学生も学校生活や寮生活にも慣れ、授業や自治会活動に意欲的に取り組み、益々充実した学生生活を送っています。去る五月には、「第二十七回農業大 学校東関東スポーツ大会」が千葉県東金市で開催されました。千葉県、茨城県、本県の四校の農大生が競い合うこの大会で、七競技種目のうち軟式野球、サッカー、卓球、バドミントンの四種目で団体優勝するなど、輝かしい成績を収めることができました。最後まであきらめずに頑張る選手の姿に感動すると共に、こうした行事を通じて学生相互の連帯

や、学生と職員間の信頼が一層強まるのを実感しました。今は、二年生が、就農の準備や就職活動など、今後の進路を決定する上での重要な時期を迎えています。一人でも多くの学生の夢や希望が叶うよう、職員一丸となって支援して参りたいと考えております。

さて、現在の農業を取り巻く環境は、担い手の減少と高齢化の進展や耕作放棄地の拡大等の課題に加え、TPPによる農産物価格への影響や、五十年近く続いた米の減反政策の廃止決定など激変期を迎えようとしています。本校での実践的教育を通して農業経営に関する高度な専門知識と確かな農業技術を修得するとともに、寮生活等で人間性の涵養を図れば、これからの大きな変革の時代にも的確に対応できるものと確信しております。学生の皆さんには、強い目的意識を持って、日々弛まぬ努力を続けていただきたいと思います。本校は、来年、創立百年を迎えますが、県内唯一の農業者の教育研修機関として今後とも時代の要請に的確に応えるため、日々精進して参りたいと考えております



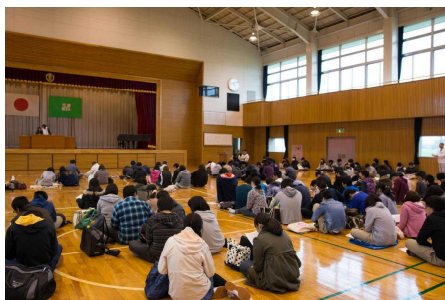
ので、後援会、同窓会及び関係機関の皆様には、引き続き本校へのご支援、ご協力をよろしくお願ひいたします。

キャンパスライフ

(26年4月～7月)

学生自治総会

四月十八日、講堂兼体育館で開催され、平成二十五年度の事業・決算が承認されるとともに、今年度の農大祭などの事業計画・予算案が可決されました。総会にあたり、松本高徳会長から「充実した活動をし、楽しく有意義な学生生活になるよう頑張りたい。」とあいさつがありました。今後の活動が期待されます。



「第二十七回農業大学校東関東スポーツ大会」

(千葉県立農業大学校開催)

五月二十三日、第二十七回農業大学校東関東スポーツ大会が千葉県で開催されました。会場は、東金市にある東金アリーナで七種目(軟式野球、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球、サッカー、硬式テニス)が行われました。中でもサッカー場は、なでしこリーグが開催される本格的な施設で行われました。参加校は栃木県農業大学校ほか、茨城県立農業大学校、千葉県立農業大学校、鯉淵学園農業栄養専門学校との四校で競われました。当日は、晴天で暑い中、屋外や体育館内で、熱戦が繰り広げられました。競技中の学生は、いっつも増して、真剣なまなざしで、生き生きとしていました。



【本校の成績】

軟式野球	優勝
バドミントン	優勝
サッカー	優勝
卓球	優勝
個人男子	第三位
(農業経営学科一年 遠藤 邦晃)	
バレーボール	第四位
テニス	第四位
団体	第四位
個人女子	第二位
(園芸経営学科花き専攻 一年 山中 恵美)	
個人女子	第三位
(園芸経営学科野菜専攻 一年 野瀬 遥加)	
バスケットボール男子	第四位
バスケットボール女子	第二位



「就農促進シンポジウム」開催

— 実際の就農を考えよう —

本校二年生を対象に、就農意欲の向上を図ることを目的に六月十八日に開催されました。

農業大学校を卒業し五年から十年を経過し、県内各地、農業経営の第一線で活躍している五名の卒業生を講師として招き、はじめに全体会、その後各学科・専攻に分かれての分科会が行われました。

日々の生活や農業経営の情報、「就農のきっかけ」「農業の厳しさや楽しさ」「人との出会い」等貴重なアドバイスをいただき、就農を再考する機会となりました。講師の卒業生は以下の方々です。(氏名、出身地、卒業年度、学科・コース、経営内容)

- ・ 船山瑛子さん 那須烏山市 二一
年度卒 作物 水稲+麦+西洋野菜
- ・ 熊田寛子さん 大田原市 二一
年度卒 畜産 和牛肥育
- ・ 早乙女克也さん 鹿沼市 二〇
年度卒 園芸・野菜 いちご
- ・ 宇戸平和幸さん 下野市 一七
年度卒 園芸・花き 洋ラン
- ・ 直井佳貴さん 芳賀町 一六
年度卒 園芸・果樹 なし



寮生活会 「消防訓練を実施」

六月三日、学生寮での緊急時の対応訓練として寮生八十三名他で消防訓練を実施しました。寮生活会・学習部が中心となり、避難、通報、消火訓練を行いました。



学生たちの 授業実習風景

— 本県農業を担う期待に応えて —

○農業経営学科

二年生二二名に新たに一年生二〇名を加え、合わせて四二名の多くの学生が在籍し、水稲、麦、大豆等を中心とした土地利用型作物と露地野菜について、栽培・経営の知識・技術を学び、さらに農作物の付加価値を高める加工技術についても学習しています。

一年生では栽培や加工の基本と農機具の安全な使用方法を学び、二年生になると作物(水稲・麦等)、露地野菜、農産加工からひとつを選択し、自分の研究テーマに基づいた試験を設定し調査研究を行います。

今年の水稲の鉄コーティング直播栽培やパン用小麦の栽培から加工、米粉利用法の開発、露地野菜の品種比較や地方野菜の栽培方法等、各学生がそれぞれ工夫した興味ある課題に取り組んでいます。



○園芸経営学科野菜専攻

今年も意欲あふれる一年生二十五名を迎え、二年生十七名と合わせて四十二名の学生が、いちごとトマトを主体とした施設野菜について学んでいます。

一年生は一時限九十分の授業や寮生活に戸惑いを感じながらも農大生活に慣れ、今では暑い中でも率先して実習に取り組むなど元気に頑張っています。

二年生は課題研究のための生育、収量、品質等の調査も終了し、今後、卒業論文のとりまとめが始まります。また、各自、卒業後の進路実現のため、就農準備や就職活動等に取り組んでいます。

写真は、トマトの収穫の様子といちごのハウス整備の様子です。



○園芸経営学科花き専攻

二年生七名に、一年生一〇名が加わり合計十七名の学生がキク、カーネーション、トルコキキョウ等の切り花やシクラメン、洋ラン等の鉢花栽培に取り組んでいます。花は品目が多く、学ぶことがたくさんありますが、学生は全力で取り組んでいます。



○園芸経営学科果樹専攻

二年生三名に加え、新たに一年生四名が入学しました。

今年はこの七名がナシ、リンゴ、ブドウ等の栽培や経営管理について学習します。一年生は各種果樹の基本的な性質や栽培を講義と実習により習得します。

二年生は課題研究の取組を通して、さらに栽培の特徴をつかんでいきます。リンゴが一名、ブドウが二名で実施しています。写真はブドウの袋かけの様子です。



○畜産経営学科

新たに一年生七名が入学し、二年生七名とともに、乳牛や肉牛の飼養管理や経営について学んでいます。

一年生は、二年生に付いて、当番制で乳牛の朝晩の搾乳や給餌の作業などを元気に行っています。

また、自給飼料生産や牛舎作業のために、各種機械の取り扱いを修得します。



「第一回オープンキャンパス」開催

六月四日（水）に、県内農業関連高校七校の生徒七十名が、本校を一日体験しました。

生徒たちは、学校の概要説明や、ほ場・実習施設などの見学、学生食堂での昼食、各出身高校の先輩たちとの交流交歓、希望学科の専攻実習見学など、学生生活を体験しました。

八月九日（土）には、農業大学校入学に関心のある方とその保護者等を対象にした「第二回オープンキャンパス」を開催します。



これからの主な行事

（平成26年9月～平成27年3月）

- 先進的経営体実習（本科一年生）
- 八月二十一日（木）
- 〽 九月三十日（火）
- 意見発表会
- 十月十七日（金）
- 秋季校内スポーツ大会・収穫祭
- 十月三十一日（金）
- 第三十八回農大祭
- 十一月二十二日（土）
- 〽 二十三日（日）
- 防災訓練
- 十二月五日（金）
- 本科卒業論文発表会
- 一月三十日（金）
- 卒業式
- 三月十三日（金）



咲かせよう 君の未来を 農業で
本県農業の次代を担う資質の高い農業経営者を、実践的教育により育成するため学生を募集します。

出願期間

- ・ 推薦入学試験
- 九月十二日（金）
- 〽 九月二十六日（金）

- ・ 一般入学試験前期
- 十一月二十五日（火）
- 〽 十二月五日（金）

- ・ 一般入学試験後期
- 二月五日（木）
- 〽 二月十三日（金）

試験期日

- ・ 推薦入学試験
- 十一月五日（水）

- ・ 一般入学試験前期
- 一月九日（金）

- ・ 一般入学試験後期
- 二月二十六日（木）

推薦及び前期試験の合格者が募集人数に達した場合は、後期試験を実施しない場合があります。

合格発表

- ・ 推薦十一月十九日（水）
- ・ 一般（前期）一月二十九日（木）
- ・ 一般（後期）三月三日（火）

研修科の紹介

就農準備校「とちぎ農業未来塾」

栃木県内で農業を始めたいと考えている方が、円滑に就農できるよう、基礎的な農業経営に関する知識や作物の栽培技術などを学べる研修を実施しています。

① 定年帰農希望者研修

平日の受講が困難な受講生を対象に土曜日に開校しています。農業経営の基本的内容を中心とした講義、実習を行い、研修期間は四月から一月で、本年は四月十二日に開校し、研修生は三十一名です。



②新規就農希望者研修

農業経営の基本的内容を中心とした講義、実習を行う「基礎コース」と各作物の農業経営、栽培技術の専門的内容とした講義、実習を行う「専門コース」があります。

○基礎コース
毎週木曜日に開校しています。

研修期間は四月から三月で、本年の研修生は四十名です。二十歳から六十歳代まで幅広い年代の研修生が受講しています。



○専門コース

いちご、施設野菜、露地野菜及び果樹の各専攻に分かれ、研修期間は四月から三月の毎週月、水、金曜日に開校しています。本年の受講生はいちご専攻は十五名、施設野菜専攻は十三名、露地野菜専攻は十三名、果樹専攻が五名です。



とちぎ農業ビジネススクール

経営の高度化を目指す農業者を対象に、経営者としての資質向上に向けた「経営スキルセミナー」や「経営者マインドセミナー」、経営者の個別課題を整理・分析する「経営改革プランニング」の研



修を行います。七月一日に開校し、三月までの九か月間で十八回の研修を行います。本年は二十三名の研修生が受講しています。

農業機械研修

農業者及び就農予定者を対象とし、農業機械利用の専門的知識技能について研修します。



①農業機械士養成研修

農業機械の効率かつ安全な利用に関する高度な知識・技術の研修（前期）及びけん引免許の取得（後期）で構成されます。

②農業機械安全効率利用研修
農作業事故防止、トラクター・コンバイン等の保守管理技術と作業技術についての研修です。

同窓会コーナー

「農の心発信地」
とちぎの響き
清い「農の心風」



栃木県農業大学校
同窓会長 鈴木源男（源泉）

近年、農業・農村を巡る情勢は、大きく変化を見せています。農政の転換期であっても元氣な地域社会の維持発展を図る源は、農業者であり、地域のリーダー達であります。主人公は生産者であります。栃木県農業大学校同窓会は、会員相互の親睦を図りながら農大の発展に協力しております。本校は、専修学校になって早や五年を迎えました。学科の再編、カリキュラムの改編等を行い前進した対応がなされ、一段と魅力ある農大づくりに努力されています。県内唯一の農業経営者教育研修機関として、その役割は大なるものです。さらに教育環境を充実発展されますよう同窓会として県当局へ要望して参ります。広報活動も大切です。皆さんのより一層の協同展開が必要と考えます。

農の心、農の絆を深め本物の農業を推進するには、遠心力を求心力に変える努力が不可欠であります。サッカーの試合で勝つためには、俊敏性、組織力、高い技術が必要といわれています。農業でも共通しませんか。時局に合ったご提案を期待します。

栃木県の重点戦略「とちぎ元気プラン」を見ると、政策の基本は「人づくり」です。県民一人ひとりが自立し、自己実現を図りながら、地域や社会の担い手となつて、力を発揮できるように推し進め、是非とも目的達成を望みます。

今年の農大祭も盛大に開催されます。来年は農業大学校一〇周年記念になりますので、前夜祭的な農大祭と考えながら見てください。最近、特に県内外の関係者から注目され、多数の来場があります。同窓会コーナーも例年どおり設置します。会員の皆様、是非ご来校いただきたく、お待ちしております。

「とちぎの響き」清い「農の心風」の母校。自然豊かで人情味のある農大に重ねてご協力をお願いします。

平成二十六年同窓会 事業計画

- ・入学式、卒業式への出席
- ・同窓会入会式への出席
- ・役員会・総会開催
- ・全国及び関東ブロック同窓会長会議出席
- ・農大だより（同窓会コーナー）作成
- ・「農業大学校に関する要望書」を県へ提出
- ・農大祭（十一月二十二日、二十三日）への参加

活動方針

- ・結成支部の強化を図るとともに、未結成支部の早期結成を推進し、同窓会の強化を図る。
- ・農業大学校の実践教育・学生募集等に対する協力及び援助を行う。
- ・会の発展と円滑な運営を図るための役員会等を開催する。
- ・その他、同窓会の目標達成に必要な活動を行う。

*詳細は、農業大学校ホームページ（同窓会コーナー）をご覧ください。

同窓会入会式

三月十三日、鈴木源男会長出席のもと、平成二十五年同窓会入会式が挙行され、本年度は本科卒業生六十三名を新入会員に迎えました。

在校生を代表して果樹専攻に在籍している松本高徳さんが、「卒業の皆様には、心からお慶び申し上げます。寝食を共にして友情を深めあつた寮生活、農業者の仕事に対する熱意を感じた先進的経営体実習など、多くの思い出が浮かんでくる事と思います。また、慣れない私達を指導してくださった専攻実習など、多くの体験を通し、私達に様々なことを教えてくださいました。私達が農大生としての自覚を持っていますのは、先生方の御指導もありますが、時には厳しく、時には優しく御指導いただいた先輩方のおかげと深く感謝しております。農業大学校の学生には、地域の皆様から高い期待が寄せられています。先輩方には御卒業後も折りに触れ、御指導くださるようお願い申し上げます。皆様方の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。」と、挨拶しました。

スイスの雲の上で

平成二十三年度 農学部本科
総合農学科農産科学コース卒業
堀江 香澄

私は、農業大学校で実際に体験してみても、農業というのは技術職であると感じていました。そして、もっと農業を肌で感じながら学びたいと思い、スイスを選んだのです。実際にスイスの文化と農業を体験してみて、やり方や技術が色々なところで少し違うことに気づきました。

しかしそれは国の農業の援助や消費者の考え方の違いも大きく影響していると思います。何を取り入れるべきか考えて、今後の農業に生かしていきたいです。

私はこの研修で、自分を改めて見つめ直し、沢山の人に自分は支えられていると実感しました。そして、何よりただ単純に楽しむ事、笑う事が大事なんだと思いました。

私は自分が信じる農業をみんなと一緒に作りあげていきたいと思っています。皆さんも、是非海外で農業研修してみませんか？

本当にたくさんの方を感じて学べますよ。



右端が堀江さん

海外研修から帰国して

平成二十四年度 本科
畜産経営学科卒業
清永 美香

国際農業者交流協会の十三ヶ月のオランダ農業研修では、日本と様々な違いに面白さを感じました。

思い出に残るのは、仕事についての話です。オランダは労働法が厳格に守られており、労働時間の上限を法律で週六十時間にしています。普通のサラリーマンでも、週二日以上は休みをとり、農家でも、夏と冬には約一週間のバカンス(海外旅行)に行きます。また、お昼休みの他に午前と午後にはコーヒー休憩を取り、仕事を効率的に行っています。



左から3人目が清永さん

「日本の農家には休日がない。」
と言うのは大袈裟ですが、日本の農家の話にはホストファミリーが驚いていました。彼らの話の中で印象深かったのは、「農業機械を使うのは、時間を作るためではないのか。」「ヘルパーと研修生に仕事を任せることは、彼らにも僕らにも利益になる。」という言葉でした。実習では、チーズ製造のすべてを任せられ、自信になりました。
現在は、那須にある森林ノ牧場で、主に乳加工を専門に牧場・カフェで働いています。オランダでは、日本を理解できていないことを痛感しました。今後は、那須地域を中心に酪農を知ってもらえるようなイベントを行いたいと思っています。

農業大学校に残って

平成二十五年年度 本科
園芸経営学科果樹専攻卒業
山本 晃平

私は、自分の将来を深く考えるため、山崎先生に相談し臨時補助員をしています。学生の立場とは違い、責任とやり甲斐を感じます。短い期間ですが、今の経験を糧に、先生方や、農業大学校に恩返しができればと思っています。



神長さん、山本さ

臨時補助員になって

平成二十五年年度 本科
畜産経営学科卒業
神長 洸岐

今年の四月から、本校で臨時補助員をしています。指導する側なので、責任感を持たなければなりません。実習指導が多いので、丁寧に指導していきたいです。将来は、農業関係に就職したいです。一年間よろしくお願ひします。